



い わ む ら  
岩村みゆき 議員  
IWAMURA Miyuki

# Q. 子育て支援にセカンドブックを

## A. 事業の実施を検討したい

**Q** 出産・子育て応援給付金事業の支給方法、支給率を聞く。

**A** 生活福祉部長

支給方法は、出産応援金は、親子健康手帳交付時の面談実施後に、妊婦1人につき5万円を、子育て応援金は、乳児の家庭に全戸訪問後に、子ども1人につき5万円を指定された口座へ振り込みしている。

支給率は、令和5年2月から8月末までの対象者、すべての方へ交付している。

**Q** 現在、3カ月健診時に行われているブックスタート事業の効果はどうか。

**A** 生活福祉部長

令和元年度から実施し、539人に1078冊をプレゼントした。保護者からは「子どもが絵本を見る様子を初めてみて、読み聞かせのきっかけになった」などの声をいただいている。親子の愛着形成に良い影響を与えているのではと考えている。

**Q** 私は、切れ目のない子育て支援するには、2歳から3歳のところが、やや間隔があいているように感じている。

**A** 生活福祉部長

そこで、2歳から3歳で2回目の絵本のプレゼントとなる、セカンドブック事業を行うことはどうか。

**A** 生活福祉部長

セカンドブック事業は、子どもの健やかな心の成長を育むとともに、更なる読書習慣へつながるきっかけづくりになると考えている。

好奇心や探求心が旺盛になり共感や思いやりが芽生え始める3歳を迎えるお子さまに絵本をプレゼントするセカンドブック事業の実施を検討したい。



# Q. 志水小学校区の交通安全対策は

## A. ゾーン30の導入を検討

本町の交通事故発生件数は年々減少傾向にあるものの、とりわけ、志水小学校区は国道や県道の主要幹線に囲まれたエリアであることから、朝夕の時間帯に流入する通行車両が多く、住民の生活や子どもたちの通学の安全性が脅かされている現状がある。

ブと狭窄が抜け道利用する車両に対する抑止力となり、幹線道路に回帰させる効果があったと考える。

**Q** この課題解決に令和3年度には、交差点ハンブと狭窄を設置された。効果はどの程度表れているのか。

**A** 企画調整部長

国土交通省のビックデータをを用いて設置前後を比較したところ、速度抑制と視認性が高まり、車両の走行速度や一時停止状況(38%↓49%)、交通量(5280台→3980台)に改善が見られた。

**Q** 東西の通行車両へも対策が必要である。町道58号線と町道6号線が交わる点滅信号交差点の今後の対策についても併せて聞く。

**A** 企画調整部長

現在、町では当該地区のさらなる対策として、区域を定めて時速30キロに速度規制する「ゾーン30」の導入を検討している。ハンブや狭窄などの安全対策を必要に応じて組み合わせ、ゾーン内における車の走行速度や通り抜けを抑制するものである。

指摘の交差点についても「ゾーン30」の導入に合わせ、関係機関と協議を行う。